

新嘗祭(宝船)

★令和7年11月23日★

農業委員 太田 盛久

毎年11月23日に明治神宮で新嘗祭(いなめさい)が行われます。

私たち多摩市の農家も稲城市、日野市の盟友と共に新嘗祭に、その年に収穫された作物を飾り付けて奉納しています。

① この時期に収穫する野菜は、夏の時期に種まきをして育てますが、今年の夏も猛暑日が続き、雨が降らず水不足という難しい環境の中、各農家が努力と試行錯誤し、今年もたくさんの野菜を無事に奉納することができました。



② 先輩達の指導を受けながら、下ごしらえをしたり、バランスを考えながら宝船を飾り付けていきます。

地区や年齢、関係なく野菜や果物の話が聞けるのも宝船制作の魅力の1つだと感じます。

私も今回で5回目の参加となりました。

③ 丁寧に指導してくれる先輩、朝早くから野菜の搬入に奔走してくれたJA職員、支えてくれる仲間感謝しながら、今年も立派な宝船が完成しました！

多摩市の水田風景 農業委員 武内 好恵

今年は「令和のコメ騒動」と大きく報道され、店から米が無くなりました。気候変動が加速する中、後継者不足、高騰する肥料や農機具、耕作放棄地の増加などなど課題山積です。

さて、現在多摩市に水田はどのくらいありますか？

ニュータウン事業を引き受ける以前の多摩村には、水田が広がっていましたが、今は4カ所の水田が残っているだけです。高層マンションをバックに、はざかけにしている稲穂は都市農業ならではの情景です。



都市に農地があること、その風景を子どもたちに残していくこと、農業委員としての役割は重要です。

市内の命名アレコレ

農業委員 熊野 美幸



金山大権現
(関戸5丁目)



古市場の碑

③ 金山大権現ごそんひつ(徳川家康御尊櫃休憩所)

遺言により久能山(静岡県)から日光(栃木県)に徳川家康の柩を移送する途中、関戸から府中に行く際に多摩川の河止めにあい、一行は一泊したとの言い伝えがあり、その記念に小さな祠が建てられました。

石祠は徳川家康が祀られている日光東照宮の方向(北側)を向いて設置されているそうです。



(参考:「歴史の散歩道 関戸～寄り道」せいせき観光まちづくり会議、「多摩市の町名 小字名、伝承地名編」多摩市都市整備部都市計画課)

① 古市場

市役所敷地の西側辺りは、昔市が立った場所と言われています。

永禄7年に小田原北条氏が関戸郷に送った掟書には、1ヶ月に6回市が開かれる日(六斎市)や、伝馬の数や免税などについても定められています。

※ 関戸郷は、関戸、百草、貝取、寺方、落川、和田などの村々で構成されていたそうです

② 宿平

旧鎌倉街道と川崎街道が交差する辺り。風土記に「村の東なり、昔宿駅を置く地也と云り」とあるそうです。

かつて青梅の地にいた平将門が藤原秀郷(依藤太)に追われていつとき関戸に拠りました。このことから関戸宿のこの場所を宿平と呼ぶようになったそうです。



宿平付近

④ 沓切坂

市役所北東に坂下というバス停があり、ここから市役所に向かう道は、細い急な坂だったため、馬の沓(または馬のくつわ)がよく切れたそうです。(新田義貞が分倍河原の戦いでこの坂道を上る際に沓が切れた説と、新田義興が鎌倉から足利尊氏を追った時の説と由来は諸説あります)。坂道の中程には庚申塔が祀られています。

←沓切坂。市役所の東側から、旧鎌倉街道へ続いています。

⑤ 馬引沢

昔、小字「沖谷戸」から乞田川へ流れ込む沢がこの地域のほぼ中央を南北に貫いており、その沢沿いに黒川方面に抜ける道あったそうです。そこには昭和41年に焼失してしまった薬王寺という古いお寺があり、近在の人々より深く敬われていました。その前を通るときは馬から降りて引いて歩かねばならない程の険しい道であったことが地名の由来と言われています。